

☞目標〇は 子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくり の目標1～5との関連を表しています。

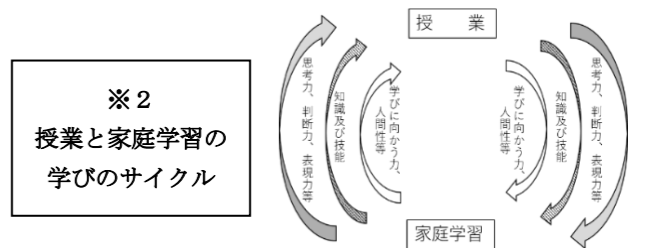
小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

☞ 目標3

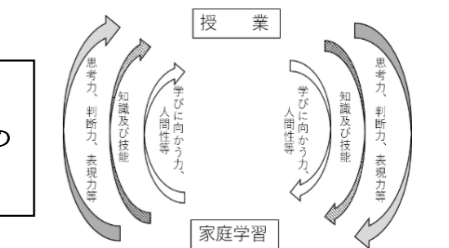
- ◎課題解決に向けて主体的に言語活動に取り組むとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を身に付けている。
- ◎日常生活・社会生活において必要な国語の特質について理解し、適切に使っている。
- ◎他者とのかかわりの中で、互いの立場や考えを尊重し合いながら、思いや考えを言葉にして伝え合っている。
- ◎読書に親しみ、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を身に付けている。（読書とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含む。）
- ◎目的や意図に応じて必要な情報を収集・整理し、理由や根拠を示しながら自分の考えを明確に表現している。情報を活用する際には、学校図書館や ICT 機器も有効に活用している。

※1 マトリックス型の指導計画表

| 5年生 | | 【思考力、判断力、表現力等】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------------------------|---|--|--|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----|------------------|------------------|
| | | A 話すこと・聞くこと | | | | | B 書くこと | | | | | C 読むこと | | | | | | |
| 月 | 指導事項 学習過程 | ① 言葉の 特徴や使 い方に 関する 事項 アイ | ② 我が国 の言語 文化に 関する 事項 アイ | ③ 我が 国の 言語 文化に 関する 事項 アイ | 話し こと 話し こと 話し こと | 聞く こと 聞く こと 聞く こと | 話し こと 話し こと 話し こと | 書く こと 書く こと 書く こと | 読む こと 読む こと 読む こと | 話す こと 話す こと 話す こと | 書く こと 書く こと 書く こと | 読む こと 読む こと 読む こと | 話し こと 話し こと 話し こと | 書く こと 書く こと 書く こと | 読む こと 読む こと 読む こと | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 単元名 | 話 す こ と | 聞 く こ と |
| 4 | ■■■■を話そう | ア | ◎ | ○ | ○ | ア | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 登場人物について 感じたことを伝え合おう | ク | | | | | | | | | | | | | ◎ | | ○ | イ |



※2 授業と家庭学習の 学びのサイクル



研修等について

小学校国語科教育講座 8/26(水) 浜田教育センター
小中学校国語科教育書写実技講座 7/21(火) 島根県教育センター
中・高等学校国語科教育講座 8/20(木), 12/3(木) 島根県教育センター
新任学校図書館担当者研修 7/2(木) 島根県教育センター
学校図書館を活用した授業改善講座 10/7(水) オンライン

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」
(国立教育政策研究所)
※小, 中, 高校の PDF データをダウンロード可能
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouairyuu.html>



StuDX Style 国語科 (文部科学省) ☞ 目標4
※小, 中, 高校での ICT 活用ポイントと授業での活用事例をダウンロード可能
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00003.htm



目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



高等学校 国語

中学校までの学びを受け、発展させる。

重点1 言語活動を通して付けたい力を 育成する

☞ 目標2 ☞ 目標3

- 各学年に示された指導事項について、どの単元及び言語活動を通して指導するかを明らかにした年間指導計画を作成し、活用している。(右図※1参照)
- 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の力を高めることを意識して付けたい力を明確化し、その力を付けるのに適切な言語活動を単元の中で設定し、生徒の主体的な学びを引き出している。
- 【☞ポイント】
 - ・「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の各領域をバランスよく扱い、生徒が単元を通して身に付けた力を実感できる授業デザインが大切です。

重点2 主体的・対話的で深い学びを 実現する授業展開を工夫する

☞ 目標1 ☞ 目標2

☞ 目標4

- 生徒自身が目的や必要性を感じる(考え、表現したい)学習課題を設定し、見通しをもって個々の考えを形成したり、課題解決に向けて試行錯誤したりする学習過程を重視した学習を進められるようにしている。
- 学習の系統性を意識し、単元と関連が深い既習事項を想起して活用できるよう支援している。
- ICT 機器等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させている。
- 対話的な学び(他者との伝え合い・作品や著者等)を効果的に設定し、多様な考えを引き出したり深い学びにつなげたりする学習展開を工夫している。
- 小中学校での学習を踏まえ、見通しをもたせたり、振り返りの時間を確保したりして、生徒が自身の学習状況を把握し、調整しようとする場面を設定している。

- 【☞ポイント】
 - ・これから生きる生徒に付けたい資質・能力と、そのために必要な学習のあり方を踏まえた授業改善を推進することが大切です。

重点3 学習評価の一層の改善・充実を図る

☞ 目標1

☞ 目標2

- 3観点を意識して「指導と評価の一体化」を図り、記録に残す評価と指導に生かす評価を明確にした多様な評価方法を工夫している。
- 単元の指導事項と言語活動を基に評価規準を設定する際、目指す生徒の姿を具体的に表現している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の観点の状況を踏まえて、「粘り強い取組を行おうとする側面」、「自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面から評価している。
- 学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、生徒自身が学習の見通しをもてるよう、学習評価の方針を事前に生徒と共有している。
- 【☞ポイント】
 - ・学習評価の妥当性や信頼性を高めるには、校内の教員間で付けたい力や評価の在り方を共有することが大切です。

中学校 国語

小学校までの学びを受け、発展させる。

重点1 言語活動を通して付けたい力を 育成する

☞ 目標2 ☞ 目標3

- 各学年に示された指導事項について、どの単元及び言語活動を通して指導するかを明らかにした年間指導計画を作成し、活用している。(右図※1参照)
- 指導事項に示された資質・能力を育成するために言葉を抛りどころにした言語活動を生徒の実態を踏まえて設定し、言葉による見方・考え方を働かせた授業を構想している。
- 【☞ポイント】
 - ・教科書や教材ありきではなく、付けたい力(指導事項)を焦点化した単元づくりが大切です。
 - ・言語活動を設定する際、指導者が実際に活動を行ってみると、ねらいに沿った活動であるかや、具体的なゴールイメージ(力を付けた生徒の姿)を確認できます。

重点2 主体的・対話的で深い学びを 実現する授業展開を工夫する

☞ 目標1 ☞ 目標2

☞ 目標4

- 生徒自身が目的や必要性を感じる(考え、表現したい)学習課題を設定し、見通しをもって個々の考えを形成したり、課題解決に向けて試行錯誤したりする学習過程を重視した学習を進められるようにしている。
- 学習の系統性を意識し、単元と関連が深い既習事項を想起して活用できるよう支援している。
- ICT 機器等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させている。
- 対話的な学び(他者との伝え合い・作品や著者等)を効果的に設定し、多様な考えを引き出したり深い学びにつなげたりする学習展開を工夫している。
- 振り返りの視点を明確にし、自己との対話を通して学びの深まりや変容を自覚できる場面を設定している。
- 授業と家庭学習とを関連させ、身に付けた言語能力の定着を図り、他教科を含めた学習や社会生活において活用しようとする意欲につなげている。(右図※2参照)

- 【☞ポイント】
 - ・ICT 機器の利用が付けたい力(指導事項)の育成に適切かを確認しましょう。生徒が ICT 機器を主体的に活用する場面を設定しましょう。

重点3 学習評価の一層の改善・充実を図る

☞ 目標1

☞ 目標2

- 3観点を意識して「指導と評価の一体化」を図り、記録に残す評価と指導に生かす評価を明確にした指導計画を立て、多様な評価方法を工夫している。
- 観点別の評価は、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、時期や場면을精選している。
- 単元の指導事項と言語活動を基に評価規準を設定する際、目指す生徒の姿を具体的に表現している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点の状況を踏まえて、「粘り強い取組を行おうとする側面」、「自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面から評価している。
- 【☞ポイント】
 - ・生徒が学習の見通しをもち、学習後には成果を確認できるよう、評価の方針や評価結果を生徒と共有するようにしましょう。

小学校 国語

幼児教育での学びを受け、発展させる。

重点1 言語活動を通して付けたい力を 育成する

☞ 目標2 ☞ 目標3

- 各学年に示された指導事項について、どの単元及び言語活動を通して指導するかを明らかにした年間指導計画を作成し、活用している。(右図※1参照)
- 指導事項に示された資質・能力を育成するために言葉を抛りどころにした言語活動を児童の実態を踏まえて設定し、言葉による見方・考え方を働かせた授業を構想している。
- 【☞ポイント】
 - ・教科書や教材ありきではなく、付けたい力(指導事項)を焦点化した単元づくりが大切です。
 - ・言語活動を設定する際、指導者が実際に活動を行ってみると、ねらいに沿った活動であるかや、具体的なゴールイメージ(力を付けた児童の姿)を確認できます。
 - ・「情報の扱い方に関する事項」は、他教科を含む今後の学習に生かせるよう、系統的な指導を心がけましょう。

重点2 主体的・対話的で深い学びを 実現する授業展開を工夫する

☞ 目標1 ☞ 目標2

☞ 目標4

- 児童自身が目的や必要性を感じる(考え、表現したい)学習課題を設定し、児童と共に課題解決のための見通しを立て、個々の考えを形成する学習過程を重視した学習を進められるようにしている。
- 学習の系統性を意識し、単元と関連が深い既習事項を想起して活用できるよう支援している。
- ICT 機器等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させている。
- 対話的な学び(他者との伝え合い・作品や著者等)を効果的に設定し、多様な考えを引き出したり深い学びにつなげたりする学習展開を工夫している。
- 振り返りの視点を明確にし、自己との対話を通して学びの深まりや変容を自覚できる場面を設定している。
- 授業と家庭学習とを関連させ、身に付けた言語能力の定着を図り、他教科を含めた学習や社会生活において活用しようとする意欲につなげている。(右図※2参照)

重点3 学習評価の一層の改善・充実を図る

☞ 目標1

☞ 目標2

- 3観点を意識して「指導と評価の一体化」を図り、記録に残す評価と指導に生かす評価を明確にした指導計画を立て、多様な評価方法を工夫している。
- 観点別の評価は、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、時期や場면을精選している。
- 単元の指導事項と言語活動を基に評価規準を設定する際、目指す児童の姿を具体的に表現している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点の状況を踏まえて、「粘り強い取組を行おうとする側面」、「自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面から評価している。
- 【☞ポイント】
 - ・目指す児童の姿を具体的にするのに併せて、その姿が見られるような授業づくりを目指すことが大切です。